

### Ⅲ. 実施に関わる全体的な状況と評価

上述の通り、授業評価アンケートは、総履修者数5名以下という例外を除けば、学部生が履修可能なほぼ全科目を対象科目として行われたことになる。対象科目数 1929、実施科目数 1906、実施率 98.81%となり、実施率としては非常に高い数値となった。これに対して学生の回答率（＝回答者数／総履修者数）は 48.73%にとどまった。回答率が 50%を切った主要な原因は、学年はじめの履修届提出数を総履修者数とみなしているためである。法学部・経済学部の講義科目では、相当数の学生が履修を放棄したり、期末試験を棄権したりするが、その総数を事前に把握するのは困難である。そのため、履修登録者数の多い授業ほど、回答率は低くなる傾向がある。

初回（平成 18（2006）年度）のアンケート実施後、いくつかの問題点が発見された。まず、アンケート実施上の授業形態についての確認が完全ではなく、また実施段階での変更等もあり多少の混乱が生じた。総履修者数5名以下の科目について、アンケートの信頼性への疑問や教員へのフィードバックに対する様々な懸念があらためて指摘された。これらの問題は第2回（平成 19（2007）年度）以降改善された。また、質問項目のうち、「Q3 授業のレベル」、「Q4 授業を進める速さ」を問う項目について、最良の評価が3となる質問形式が5段階評価にそぐわず、結果集計の際にもデータに重みを付けるなど多少複雑な処理が必要であった。この問題については、平成 20(2008)年度実施時から質問形式を変更することとした。

平成 20（2008）年3月、教員へのフィードバックとして、個々の授業についてのアンケート結果を担当教員に送付した。同年4月には速報版を Web ページに公開し、授業開設部門別、授業形態別に、各設問（主な 10 設問＋ $\alpha$ ）に対する平均・標準偏差の表、およびそれらをグラフ化した「基礎集計結果」を掲載した。また、「実施概要」および「授業満足度にみる集計結果」もあわせて公開した。また、これらに加え、部門別、形態別、学年別、総履修者数別の集計をとった「基礎データクロス表」、およびアンケートの問に対する相関係数を部門別・形態別にまとめた「相関係数表」を作成した。「基礎データクロス表」は第3章に、「相関係数表」は「基礎集計結果」とともに第2章の各部門の頁末に掲載する。次章における各部門の分析・評価の概要はこれらのデータをもとに行われたものである。

以下に Web ページに公開された「実施概要」および「授業満足度にみる集計結果」を転記する。

## 1. 実施概要

部門別・形態別の実施率・回答率が図表1に示されています。履修登録者数の多い法学部・経済学部講義科目では、履修登録者数と実際の履修者数が一致しません。そのためこれらの科目では回答率が低くなる傾向があり、全体の回答率を引き下げる要因となっています。

図表1 アンケート実施率および実施科目の回答率

部門別			実施率			回答率		
			対象科目数	実施科目数	実施率	総履修者数	回答者数	回答率
部門別	計セ	講義	84	83	98.81%	5,141	3,711	72.18%
		合計	84	83	98.81%	5,141	3,711	72.18%
	外セ	語学	485	481	99.18%	12,233	9,139	74.71%
		合計	485	481	99.18%	12,233	9,139	74.71%
	スポ健	演習	113	112	99.12%	2,773	1,887	68.05%
		合計	113	112	99.12%	2,773	1,887	68.05%
	共通科目	講義	60	59	98.33%	10,905	4,089	37.50%
		合計	60	59	98.33%	10,905	4,089	37.50%
	法学部	講義	148	148	100.00%	31,622	9,795	30.98%
		演習	86	84	97.67%	1,476	1,091	73.92%
		合計	234	232	99.15%	33,098	10,886	32.89%
	経済学部	講義	158	157	99.37%	22,565	7,639	33.85%
		演習	123	119	96.75%	2,026	1,649	81.39%
		合計	281	276	98.22%	24,591	9,288	37.77%
	文学部	講義	156	155	99.36%	11,653	6,774	58.13%
		演習	263	259	98.48%	6,593	4,635	70.30%
		合計	419	414	98.81%	18,246	11,409	62.53%
	理学部	講義	115	112	97.39%	5,941	3,124	52.58%
		演習	31	30	96.77%	1,656	1,073	64.79%
		合計	146	142	97.26%	7,597	4,197	55.25%
教職課程	講義	33	33	100.00%	1,857	1,261	67.91%	
	演習	55	55	100.00%	1,822	1,523	83.59%	
	合計	88	88	100.00%	3,679	2,784	75.67%	
学芸員	講義	11	11	100.00%	915	643	70.27%	
	演習	8	8	100.00%	130	106	81.54%	
	合計	19	19	100.00%	1,045	749	71.67%	
形態別	講義計	765	758	99.08%	90,599	37,036	40.88%	
	演習計	679	667	98.23%	16,476	11,964	72.61%	
	語学計(再掲)	485	481	99.18%	12,233	9,139	74.71%	
全科目		1,929	1,906	98.81%	119,308	58,139	48.73%	

【図表1で使用している用語の定義】

「部門別」: 学部やセンターといった授業の開設部門の単位で、10の部門にまとめています。「計算機センター」

「外国語教育研究センター」「スポーツ・健康科学センター」については、それぞれ「計セ」「外セ」「スポ健」という略称を用いています。なお、学部生が履修できる大学院科目については、それぞれ対応する学部を開設部門として集計しています。

「形態別」:アンケート実施上の授業形態で、「講義」「演習」「語学」の3種類です。

「実施率」:実施対象となった全科目に対する実施科目数の集計結果です。

「回答率」:実際にアンケートを実施した全科目の総履修者数に対する集計結果です。

次に、アンケートを実施した科目のうち、それぞれの総履修者数を5段階にランク分けし、さらに「形態別」に分類した状況をまとめたものが図表2です。前年度とほぼ同様の傾向になっています。

図表2 形態別・総履修者数ランク

			総履修者数ランク					
			25名以下	26～50名	51～100名	101～200名	201名以上	合計
形態別	講義	科目数	121	120	236	145	136	758
		%	15.96%	15.83%	31.13%	19.13%	17.94%	100.00%
	演習	科目数	418	213	30	6	0	667
		%	62.67%	31.93%	4.50%	0.90%	0.00%	100.00%
	語学	科目数	236	245	0	0	0	481
		%	49.06%	50.94%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計	科目数		775	578	266	151	136	1906
	%		40.66%	30.33%	13.96%	7.92%	7.14%	100.00%

回答者の種別については図表3のとおりです。前年度同様、回答者の約95%が本学の学部生であること、また、学部生に限ると、1年生の回答者数が最も多く、学年が進むにしたがって回答者数が減少していることも前年度と同様の傾向です。

図表3 回答者の種別

	1年	2年	3年	4年	他大生他	無回答	合計
学部生	22,848	16,446	10,334	4,628	28	888	55,172
大学院生(博士前期課程)	230	96	6	3	2	8	345
大学院生(博士後期課程)	28	22	22	1	0	1	74
科目等履修生(学部)	52	55	66	20	31	49	273
科目等履修生(大学院)	1	0	0	0	6	2	9
他大学生(大学院生含む)	2	5	3	4	90	9	113
不明	547	412	315	180	14	685	2,153
合計	23,708	17,036	10,746	4,836	171	1,642	58,139

※一部、学生種別と学年との回答の関係としてふさわしくないものもありますが、そのまま掲載しています。

## 2. 授業満足度に見る集計結果

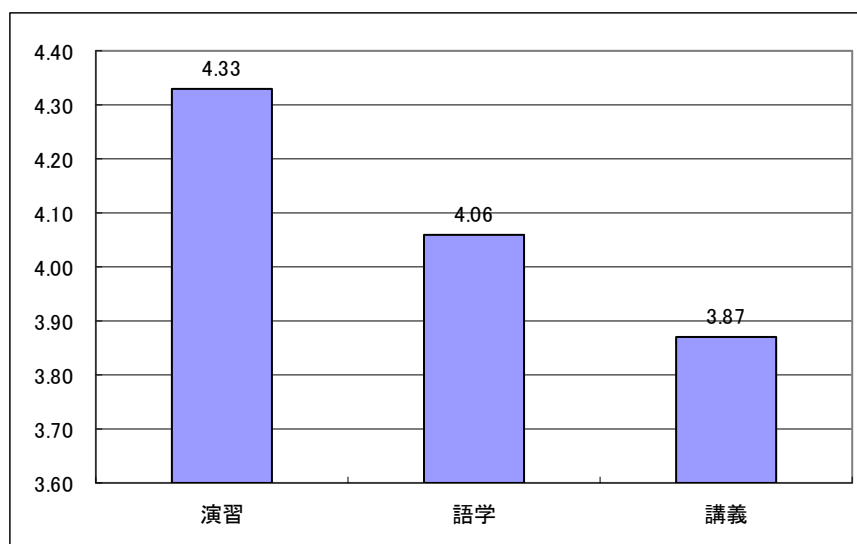
今回のアンケート結果については、全回答を単純に集計する「回答者ベース」と、科目単位で集計した「科目ベース」の2種類の集計を行っています。これは、「回答者ベース」による集計結果だけで分析すると、履修者数の多い科目の影響を強く受けてしまうことがあるためです。

さて、以下では、質問項目10の「総合的に見てこの授業は高く評価できる」という質問に対する回答結果に注目し、授業に対する満足度を「形態別」、「総履修者数ランク別」、質問項目1の回答による「出席率別」、「学部生の学年別」（以下、「学年別」という4つの視点から分析してみることになります。

### ・「形態別」による集計結果

「講義」「演習」「語学」という3種類の形態別に集計した結果が図表4です。前年度の結果と比較してみると、「演習」(+0.02ポイント)、「語学」(+0.05ポイント)、「講義」(+0.01ポイント)のいずれも上昇しました。比較的少人数で教員と学生の距離が近く、学生の授業への参加度が高いと思われる「演習」に対する満足度に比べると、発表など学生の授業への直接参加が少ないと思われる「講義」、初習外国語の授業を含む「語学」に対する満足度がやや低いことが分かります。

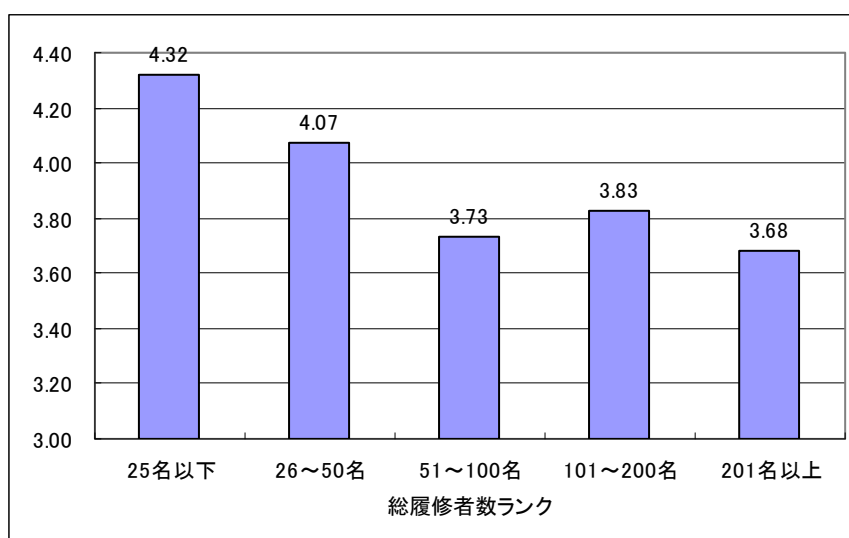
図表4 「10 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「形態別」集計結果(科目ベース)



・「総履修者数ランク別」による集計結果

「形態別」の集計結果にも関係していることですが、授業の規模によって満足度に差があることも考えられます。このため、アンケート実施科目の総履修者数を5つのランクに分けた上で集計した結果が図表5です。前年度と比較すると、「25名以下」(+0.03ポイント)、「26～50名」(+0.01ポイント)、「101～200名」(+0.02ポイント)、「201名以上」(+0.05ポイント)の4区分は上昇しましたが、「51～100名」は-0.01ポイントとなりました。全体としては、前年度同様、総履修者数が少ない科目の満足度が高い傾向にあります。

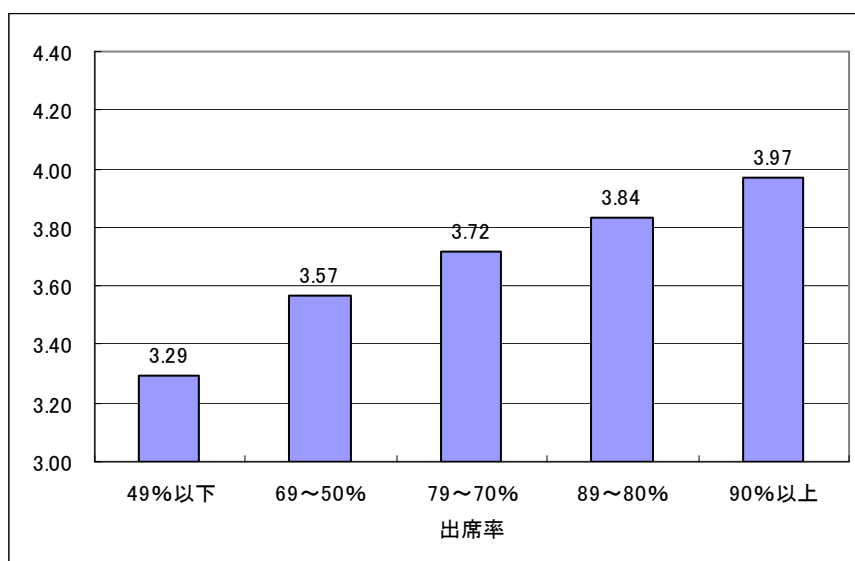
図表5 「10 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「総履修者数ランク別」集計結果  
(科目ベース)



・「出席率別」による集計結果

授業への満足度は、出席率とどのような関係にあるのでしょうか。その集計結果が図表6です。前年度と比較すると、「49%以下」(+0.03ポイント)、「69～50%」(+0.07ポイント)、「79～70%」(+0.02ポイント)、「89～80%」(+0.01ポイント)、「90%以上」(+0.02ポイント)の全区分において、ポイントが上昇しました。前年度同様、「出席率が高いのは、授業に対する満足度が高い証拠」といえそうです。

図表6 「10 総合的に見てこの授業は高く評価できる」と「1 出席率」の集計結果(回答者ベース)



・「学年別」による集計結果

学年毎の満足度の差はあるのでしょうか。これを確認するために、学部生に限定して「学年別」の分析を行った結果が図表7です。前年度と比較すると、「学部1年」(+0.03ポイント)、「学部3年」(+0.06ポイント)、「学部4年」(+0.05ポイント)の3区分は上昇しましたが、「学部2年」は-0.03ポイントとやや下がりました。前年同様、学年が進むにつれて満足度が高くなっていく様子がうかがえます。「学部2年」の満足度がやや伸び悩んでいる原因を追究することで、授業改善への足掛かりが見出せるかもしれません。

図表7 「10 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「学年別」集計結果(回答者ベース)

